

テーマ
ExcelやFileMakerに慣れてしまって、新しいシステムは使いにくい——そんな館に、解決策。
～新規導入システムの実利用推進～

スタッフから抵抗を受けることなく、スムーズに「Excel離れ」を促すには.....？
 データ・ステーションとして使えるI.B.MUSEUM 2005なら、こんな方法が可能です。

長
 い設計期間を経て、苦勞に苦勞を重ねて導入した収蔵品管理システム。これで、データは—安心。と思っていたのに、なぜかスタッフがなかなか使ってくれない.....。
 収蔵品管理の現場では、時々、こんなお悩みを耳にします。ひどいケースになると、新しいデータがシステム以外の場所にどんどん蓄積されていって、結局、ExcelやAccess、ファイルメーカーで管理されているということも。これでは、何のためにシステムを導入したのか、わからなくなってしまいますね。

そんな悩みに頭を抱えていたのは、トヨタ博物館の学芸員・藤井麻希さん。「なぜ？」と5回考えなさい」という社訓に忠実に、「どうして使ってくれないのだろう」と考え結果、ある結論に行き着いたそうです。
 スタッフが使わないのは、怠慢だからではなく、むしろ仕事熱心だから。急ぎの調べものや、正確なデータを参照したい時に、慣れ親しんだデータに頼るのは当然のこと。それなら、逆にExcelを使わせたほうがいいのでは.....。
 スタッフの気持ちをくんだ藤井さんは、ある対策を講じました。すると、多くの

人々がシステムを使い始めて、稼働がグンと上がったとか.....。
 今回は、あのトヨタ博物館で実際に効果を発揮した、新システムの実利用促進策。そのポイントは「使用するスタッフ側ではなく、システム側で『従来の資料体系』に対応する」こと。I.B.MUSEUM 2005の関連ファイル機能を使えば、こんな移行方法が可能なのです。



Excelシートを使いながら、Excel管理から脱却する方法。

① 関連ファイル機能を使って、個人ファイルをシステムに登録。

I.B.MUSEUM 2005の「関連ファイル機能」は、収蔵品管理画面上からパソコン内の任意のファイルにリンクを張って、「資料集」を作れるというもの。まずこの機能を使って、これまでの作業で使用していたExcelファイルを登録します。



まず、こんな感じで「資料集」をつくります

② 最新データや個人のメモは、参照用として直接呼び出し。

登録・入力画面から、他のフォーマットのファイルを直接呼び出すことができるので、フォルダを探し回ったりアプリケーションを立ち上げたりする手間が不要。これで、収蔵品管理システムが仕事のステーションとして認知されます。



I.B.MUSEUMから直接ファイルを呼び出せるので.....

③ 必要に応じて館内デモや説明会を開いて、便利さを確認。

こうした作業がカンタンにできることを、スタッフの皆さんに知っていただきます。操作説明会などを実施して「システムの便利さ」を理解してもらえれば、きっと実用度も上がるはず。慣れてしまえば、データの一元管理化もグッと進みます。



結果的に、常にI.B.MUSEUMの画面が開いているということに

トヨタ博物館
 学芸グループ 学芸員
藤井麻希さん
 システム導入では、昨日までExcelで管理していたスタッフに対して「今日からこっちね」とお願いすることになります。でも、「今日から」Excelのワークシートを一切見ないようにするなんて、無理ですよね。ならば、Excelファイル自体を、I.B.MUSEUMで見られるようにすればいい、と思ひまして。みんな、使ってくれるようになりましたよ。

収藏品データ画面が、まるでデータセンターのように。 あらゆるファイルを「周辺資料」として登録できる I.B.MUSEUM 2005の関連ファイル機能。

I.B.MUSEUM 2005で好評を集める「関連ファイル機能」は、ファイルのフォーマットに関わらず、収藏品管理画面に直接登録できる機能です。リンクを張る、あるいは「お気に入り」に登録するような感覚で使えるため、学芸活動で得た資料やデータを有機的に活用することが可能となります。

「いつものExcel」画面の閲覧も、I.B.MUSEUM同様、Webブラウザで。従来の管理手法と付かず離れず、スムーズに作業を移行できます。



収藏品データの各ページが、そのまま「書庫」になる感覚。
ハードディスク内に散らばったデータも、これでスッキリ。



連ファイル機能は、ハードディスクやネットワーク上に保存されているファイルの「場所」を登録し、必要な時に瞬時に呼び出せる便利な機能。WordやExcelファイルをはじめ、Webブラウザで読み込める形式のファイルなら、そのまま呼び出すことが可能なので、収藏品管理画面から離れることなく、シームレスな作業を実現できます。登録方法も、目的のファイルを指定するだけと、いたってカンタン。「あの資料はどこだっけ?」とハードディスク内を探し回ることもなく、入力・閲覧作業もよりサクサクと進められるようになります。

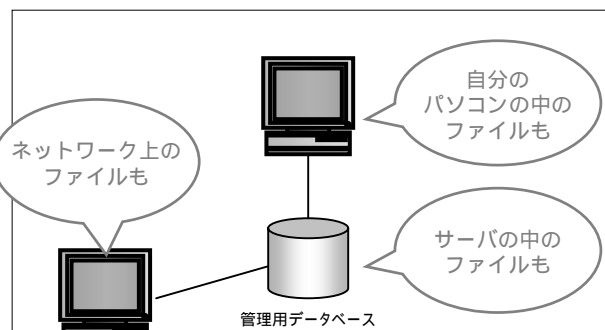


個別の収藏品データ画面から、直接Excelファイル呼び出せます。

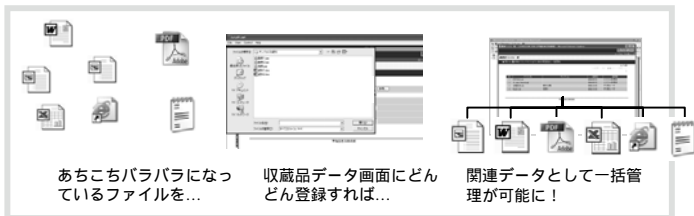
I.B.MUSEUM内のデータも、Excelファイルも「同じ画面」で。
これなら、操作にもすぐ慣れていただけるはず。



例えば、他館で作成してもらったExcelファイルの資料を、館の収藏品管理データに反映したい場合。まず、添付ファイルでメールを送ってもらい、館で受信したファイルの保存場所をI.B.MUSEUMに登録された収藏品データ画面で指定します。これで、いつでも「関連資料」として呼び出すことが可能。また、収藏品画面から立ち上げる場合、ExcelファイルもWebブラウザで開くため、アプリケーションの切り替えの必要すらナシ。収藏品管理画面をデータセンターのように使えるようになり、パソコン操作に慣れない方でも無理なくお使いいただけるようになります。



場所もフォーマットも、一切関係ナシ。
すべて「周辺資料」「関連ファイル」として
収藏品画面に登録することが可能です。



I.B.MUSEUM 2005に関する
詳しい資料を用意しております。
お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせは、フリーダイヤルをご利用ください。

0120-14-9223

(平日 月～金曜日9:30～18:00)